

## OPEC の追加減産を踏まえた石油需給・油価見通し

2023 年 5 月

榎本量平

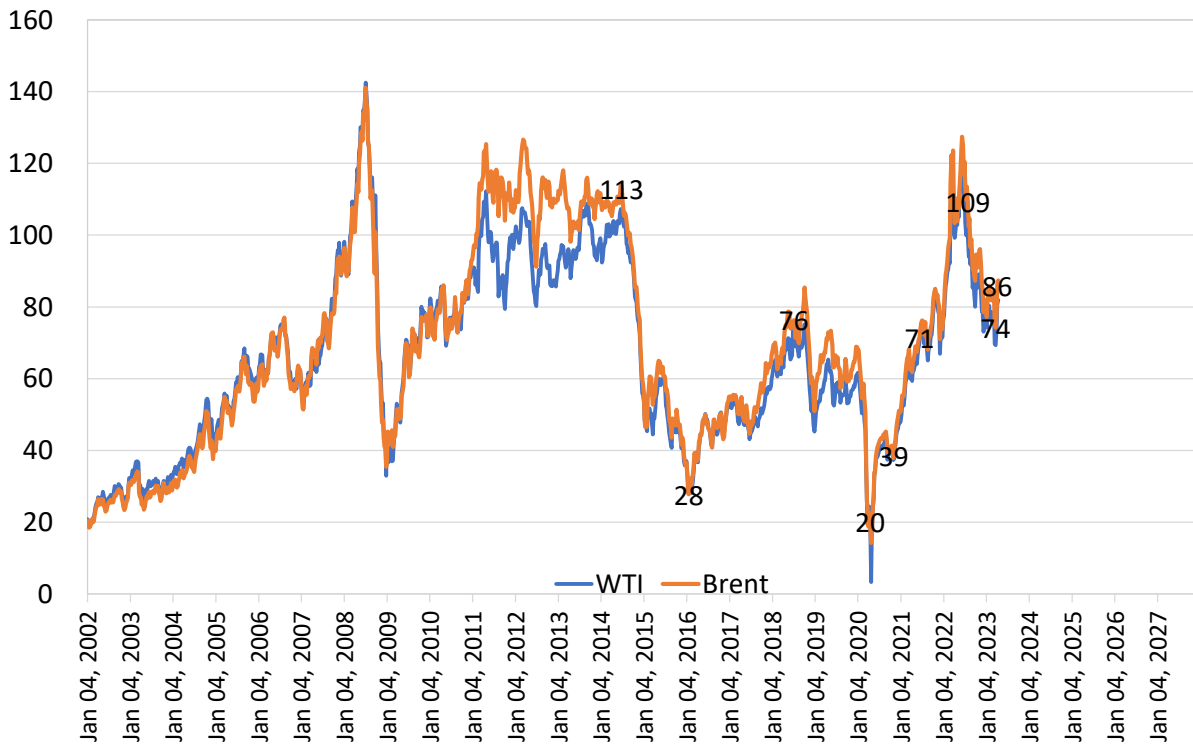
主席アナリスト兼部長 調査事業部

INPEX ソリューションズ

- 4 月上旬に発表された OPEC プラスの自主的追加減産を踏まえて、石油需給・油価見通しをレポートする。今回の追加減産は、「サプライズ」などの報道もあるが) 当面の供給過剰感に対処するファンダメンタルなものだと捉えている。一部には、今後の需給タイト感や油価 100 ドルなどの見解・報道もあるが、概ね需給はバランスし、油価も大きな上昇はないと、筆者は見ている。
- 第一に、簡単なレビューとして、筆者は昨年 7 月 (当時ブレント 109 ドル) のレポートで、「ロシア産原油への制裁で (供給不足も) 懸念されているが、データ上は今後、供給過剰に転じる。代替調達 (販売) 先などサプライチェーンが安定するにつれ、油価は下がる」としていた。その後、ロシア産原油はインド等に流れるなどし、昨年 11 月の OPEC の日量 200 万バレルの協調減産にも関わらず、供給過剰感等により、(概ね筆者の予想通り)、3 月にブレント 74 ドルまで下落していた。そして今回、日量 116 万バレル (ロシアの日量 50 万バレルを除く) の追加減産が発表された

### WTI, Brent (2000/1/7-2023/4/14, 週次)

昨年7月頃以降、供給過剰感により油価下落。足元、追加減産でやや戻す



- 第二に、今回の OPEC の追加減産に関しては、「サプライズ」など、様々な報道がなされているが基本的には、足元および当面の供給過剰感（4 ページの需給モデルで、黄色でハイライトしている）への処置という、ファンダメンタルなものだと、筆者は捉えている。この供給過剰感の背景として、
  - ✓ ①ロシアの原油生産量が、（今年 3 月からの日量 50 万バレルの減産にも関わらず）、欧米の制裁があっても、インド等に販売できたことにより、昨年時点の想定ほど落ちていないこと（今回の需給モデル（下図）と昨年時点を比較することにより確認できる）、
  - ✓ ②需要に関しても、もともと今年下期から目立った回復が予想されていたが（IEA 等により）、中国や欧州の伸び悩みにより、穏やかな需要増に留まるだろう、と筆者は見ている（3 ページの需給モデル）。
- 第三に、今後の需給バランスとしては、（一部（IEA 等）には需給タイトを想定しているが）、概ねバランスした状況を、筆者は予想している。理由としては、（前述の）今下期の需要増が穏やかだろうこと、および OPEC+ の追加減産も、Voluntary なものであることから、（需給が目立ってタイトになるほど）額面通りに実施はされない、と筆者は見ている。その結果、油価は（一部には 100 ドルなどとの予測・報道もあるが）、足元の水準から大きな上昇はないと、筆者は見ている。

本レポートは4月21日に、INPEXグループ内でリリースしたものを、社外向けにも公表するものです（下図はスケルトンのみとしデータは省略させて頂いております。ご関心ある方はお問い合わせ願います）。本稿などエネルギー見通し、Energy Transition 動向、国内外エネルギー企業動向などに関する講演、寄稿、受託調査など対応しております。ご相談・お問い合わせは下のリンクより承ります。

(mmb/d)	1Q21	2Q21	3Q21	4Q21	1Q22	2Q22	3Q22	4Q22	1Q23	2Q23	3Q23	4Q23	2021	2022	2023
世界石油需要															
世界石油供給															
需要－供給															
Brent															
WTI															
世界石油需要															
米国需要															
中国需要															
欧州需要															
インド需要															
日本需要															
その他需要															
世界石油供給															
サウジ															
イラン															
イラク															
UAE															
クウェート															
アンゴラ															
ナイジェリア															
リビア															
アルジェリア															
ベネズエラ															
コンゴ、ガボン、ギニア															
OPEC NGLs															
ロシア															
カザフスタン															
アゼルバイジャン															
オマーン															
メキシコ															
バーレーン、ブルネイ、マレーシア、スーダン															
カタール															
米国															
カナダ															
英国															
ノルウェー															
中国															
インド															
インドネシア															
ブラジル															
OPEC															
OPEC+															
非OPEC															
非OPEC+															

出所：各種機関等を基にINPEXソリューションズ（樹本量平）作成

注：OPEC各国の生産量はCrude Oilであり下の欄のOPEC NGLsでOPEC全体のNGLsが加算されている

注：非OPEC各国の生産量はcondensateやNGL、重質油、シェールオイル等を含む